

数学ターミナル 線型代数の発想
ダイジェスト版 25

前回まで

例 3元1次方程式

★ ダイジェスト版21 pp.3-5(再掲), ダイジェスト版22 p.13

$$1x_1 + 1x_2 + 1x_3 = 0$$

の解

(I) 演算 数ベクトルの加法

$$\begin{array}{c} \left(\begin{array}{c} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{array} \right) \\ \cap \\ \text{集合 } \mathbb{R}^3 \end{array} = \begin{array}{c} \left(\begin{array}{c} -1 \\ 1 \\ 0 \end{array} \right) \\ \cap \\ \mathbb{R}^3 \end{array} \begin{array}{c} t_1 \\ \cap \\ \mathbb{R} \end{array} + \begin{array}{c} \left(\begin{array}{c} -1 \\ 0 \\ 1 \end{array} \right) \\ \cap \\ \mathbb{R}^3 \end{array} \begin{array}{c} t_2 \\ \cap \\ \mathbb{R} \end{array}$$

(II) 演算 数ベクトルのスカラー倍

を表すために, 演算 (I), (II) が自由にできる集合として線型空間 \mathbb{R}^3 を導入し, そのあとで解だけを集めた部分線型空間を考えました.

今回 内積 — 連立1次方程式の検算の観点

★ 本書 p.232

導入

3元1次方程式

$$2x_1 + 5x_2 - 1x_3 = 0.$$

問題1 解ベクトルを求めてください.

解 $x_1 = s, x_2 = t$ (s, t は任意の実数)

とおくと

$$x_3 = 2s + 5t$$

となります。解ベクトルは

$$\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix} s + \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 5 \end{pmatrix} t$$

です。

★ 解は数ベクトルの加法・スカラー倍で表せることに着目する。

Q どのように検算するといいいでしょうか？

問題 2

$$2x_1 + 5x_2 - 1x_3 = 0.$$

の左辺を内積で表した式に問題 1 の解

$$\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix} s + \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 5 \end{pmatrix} t$$

を代入して、解が正しいかどうかを確かめてください。

★ 本問は、

「内積にどのような演算規則を決めないと検算できないか」

を考えるための問題です。

解 つぎのように内積の演算規則を規定すると検算できます。

$$\begin{pmatrix} 2 \\ 5 \\ -1 \end{pmatrix} \cdot \left\{ \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix} s + \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 5 \end{pmatrix} t \right\} \leftarrow \begin{pmatrix} 2 \\ 5 \\ -1 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \end{pmatrix} \text{に解を代入した.}$$

$$= \begin{pmatrix} 2 \\ 5 \\ -1 \end{pmatrix} \cdot \left\{ \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix} s \right\} + \begin{pmatrix} 2 \\ 5 \\ -1 \end{pmatrix} \cdot \left\{ \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 5 \end{pmatrix} t \right\}$$

内積の分配法則を規定する. \longrightarrow ★ 本書 p.235(ii)

$$= \left\{ \begin{pmatrix} 2 \\ 5 \\ -1 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix} \right\} s + \left\{ \begin{pmatrix} 2 \\ 5 \\ -1 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 5 \end{pmatrix} \right\} t$$

内積のスカラー倍を規定する. \longrightarrow ★ 本書 p.235(iii)

$$= 0s + 0t$$

$$= 0.$$

内積線型空間

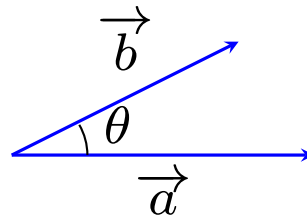
内積 (演算規則) を規定した線型空間 (集合)

★ 内積線型空間の定義は本書 p.235 参照.

内積の幾何的性質

ねらい

- 直交する幾何ベクトルの内積は0であるのはなぜか？
- $\vec{a} \cdot \vec{b} = \|\vec{a}\| \|\vec{b}\| \cos \theta$ が成り立つのはなぜか？

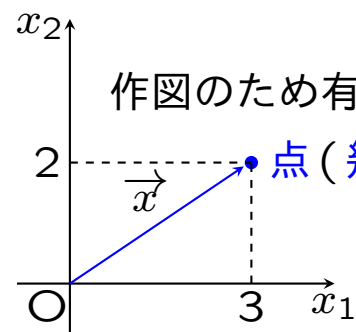


これらの理由を理解するために、ベクトルのノルム(大きさ)から始めます。

(1) ベクトルのノルム

★ 本書 p.237

- 幾何ベクトル \vec{x} のノルムとは？



作図のため有向線分 (矢線) を描く。

$$\|\vec{x}\| = \sqrt{3^2 + 2^2}. \quad \blacktriangleleft \text{三平方の定理}$$

- 数ベクトル $\varkappa = \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \end{pmatrix}$ のノルムとは？

$$\varkappa \cdot \varkappa = \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \end{pmatrix} = 3^2 + 2^2$$

だから

$$\sqrt{\varkappa \cdot \varkappa} = \sqrt{3^2 + 2^2}.$$

は幾何ベクトルのノルム $\|\vec{x}\|$ と一致します。

数ベクトルのノルムは自分自身の内積で表し、

$$\|\varkappa\| = \sqrt{\varkappa \cdot \varkappa}$$

と決めます。

問題 3 $\varkappa \cdot \varkappa = \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix}$ のとき,

$$\|\varkappa\| = \sqrt{\varkappa \cdot \varkappa}$$

の右辺を和の記号 \sum で表してください.

解

$$\begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{pmatrix} = x_1^2 + x_2^2 + \cdots + x_n^2$$

だから

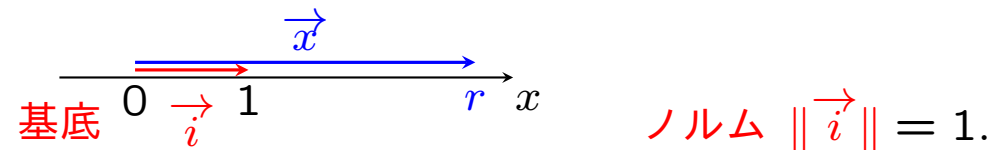
$$\|x\| = \sqrt{\sum_{k=1}^n x_k^2}$$

と表せます。

★ 番号は i, j, k, l, m, n で表します。★ 本書 p.4 [注意3]

(2) ベクトルをノルムで表す方法

問題 4 \vec{x} をノルム $\|\vec{x}\|$ で表してください.



★ 30秒間 考えてわからなかったら、本書 p.238 問3.17を見よ.

解

手順1 「 \vec{x} は \vec{i} の r 倍である」という文を式に翻訳します。

$$\vec{x} = \vec{i} r.$$

\vec{i} で x 軸の方向であること、 r で大きさを表します。

手順2 r を \vec{x} のノルムで表します。

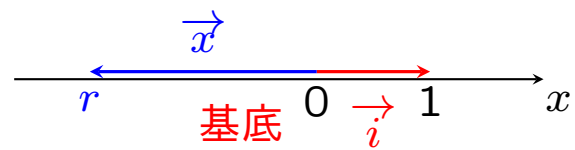
$$\vec{x} = \vec{i} \|\vec{x}\|.$$

手順3 \vec{i} を \vec{x} のノルムで表します。

$$\vec{x} = \frac{\vec{x}}{\|\vec{x}\|} \|\vec{x}\|.$$

★ 図を見よ.

問題 5 \vec{x} をノルム $\|\vec{x}\|$ で表してください.



ノルム $\|\vec{i}\| = 1$.

解

手順1 「 \vec{x} は \vec{i} の r 倍である」という文を式に翻訳します。

$$\vec{x} = \vec{i} r.$$

手順2 r を \vec{x} のノルムで表します。

$$\vec{x} = \vec{i} (-\|\vec{x}\|). \quad \leftarrow r < 0 \text{に注意. } r = -\|\vec{x}\|.$$

手順3 \vec{i} を \vec{x} のノルムで表します。

$$\begin{aligned} \vec{x} &= \frac{-\vec{x}}{\|\vec{x}\|} (-\|\vec{x}\|) \quad \leftarrow -\|\vec{x}\| \text{を有向距離という.} \\ &= \frac{\vec{x}}{\|\vec{x}\|} \|\vec{x}\|. \quad \leftarrow \text{問題4と同じ.} \end{aligned}$$

★ 図を見よ。 \vec{x} は \vec{i} の反対向きであることに注意。 $-\vec{x}$ は x 軸の正の向き。 $\vec{i} = \frac{-\vec{x}}{\|\vec{x}\|}$.

★ 問題4, 5で, \vec{x} の向きに関係なく, \vec{x} の表し方は同じであることがわかったことになる。

(3) ベクトルの直交条件

基本

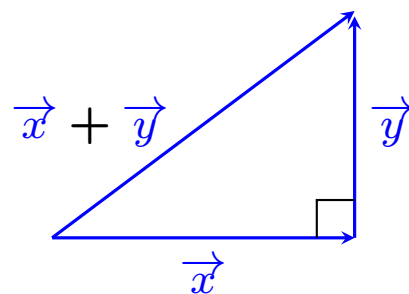
- ① 三平方の定理
- ② ノルムの2乗は自分自身の内積で表せる.

問題6

直交する幾何ベクトル \vec{x} と \vec{y} との内積は

$$\vec{x} \cdot \vec{y} = 0$$

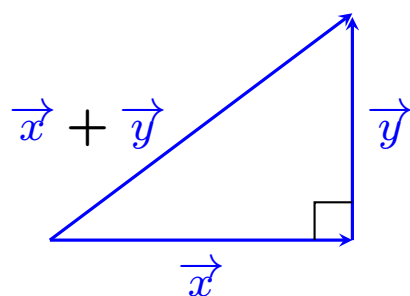
であることを示してください.



- ★ 三平方の定理で $\|\vec{x} + \vec{y}\|^2$, $\|\vec{x}\|^2$, $\|\vec{y}\|^2$ の関係を式で表す.
- ★ $\|\vec{x} + \vec{y}\|^2$ を内積で表す.

解

★ 本書 p.239 問 3.18



三平方の定理が成り立つから

$$\|\vec{x} + \vec{y}\|^2 = \|\vec{x}\|^2 + \|\vec{y}\|^2.$$

ノルムの2乗は自分自身の内積だから

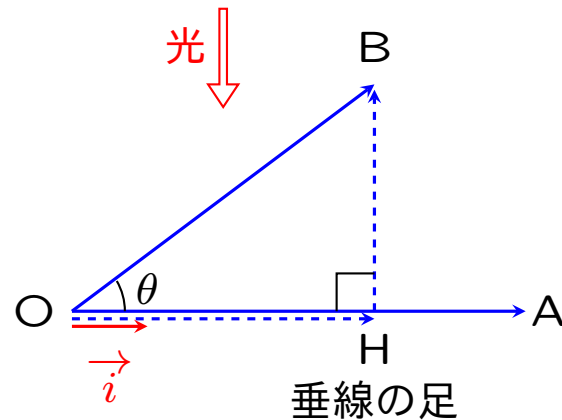
$$\begin{aligned}\|\vec{x} + \vec{y}\|^2 &= (\vec{x} + \vec{y}) \cdot (\vec{x} + \vec{y}) \\ &= \vec{x} \cdot \vec{x} + \vec{x} \cdot \vec{y} + \vec{y} \cdot \vec{x} + \vec{y} \cdot \vec{y} \\ &\quad \text{分配法則} \\ &= \|\vec{x}\|^2 + 2\vec{x} \cdot \vec{y} + \|\vec{y}\|^2. \\ &\quad \text{内積の交換法則}\end{aligned}$$

これらの式を比べると

$$\vec{x} \cdot \vec{y} = 0$$

です。

$$(4) \vec{a} \cdot \vec{b} = \|\vec{a}\| \|\vec{b}\| \cos \theta.$$



\vec{OH} は \vec{OB} の射影.

単位ベクトルのノルム $\|\vec{i}\| = 1$.

問題 7 $\vec{OA} \cdot \vec{OB}$ に $\vec{OB} = \vec{OH} + \vec{HB}$ を代入し, 内積の分配法則を使って

$$\vec{OA} \cdot \vec{OB} = \|\vec{OA}\| \|\vec{OB}\| \cos \theta$$

を示してください.

解

$$\vec{OA} \cdot \vec{OB} = \vec{OA} \cdot (\vec{OH} + \vec{HB})$$

$$\stackrel{\text{分配法則}}{=} \vec{OA} \cdot \vec{OH} + \underbrace{\vec{OA} \cdot \vec{HB}}_0$$

◀ $\vec{OA} \perp \vec{HB}$.

$$= \vec{i} \|\vec{OA}\| \cdot \vec{i} \|\vec{OH}\|$$

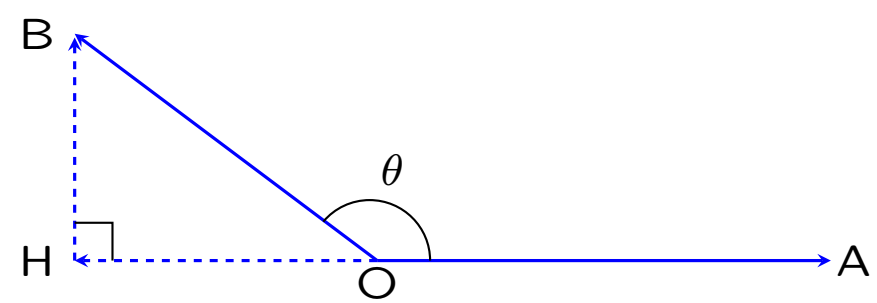
◀ 問題4

$$= \|\vec{OA}\| \underbrace{\|\vec{OB}\| \cos \theta}_{\|\vec{OH}\|}$$

◀ $\vec{i} \cdot \vec{i} = \|\vec{i}\|^2 = 1$.
自分自身の内積はノルムの2乗.

★ 別解 本書 p.239 問3.19

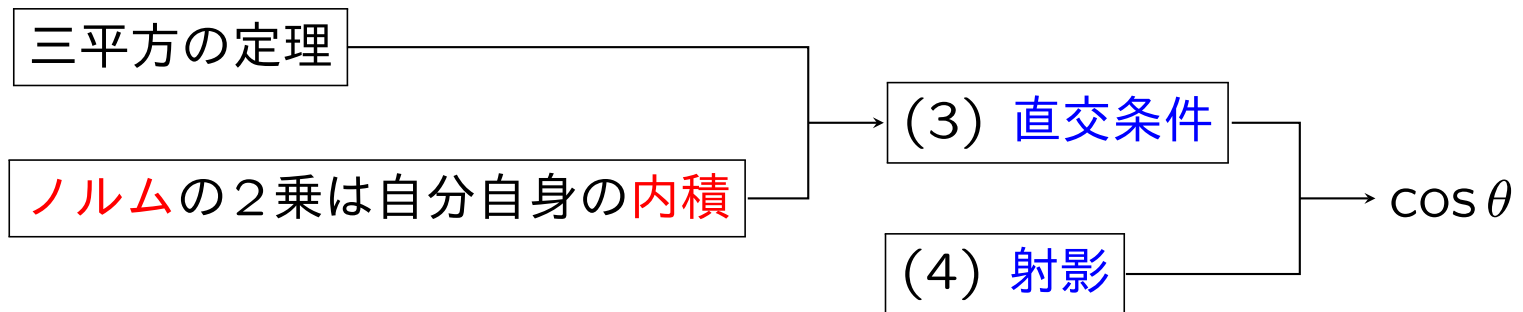
注意



$$\|\vec{OH}\| = \underbrace{\|\vec{OB}\|}_{\text{正}} \underbrace{\cos \theta}_{\text{負}}.$$

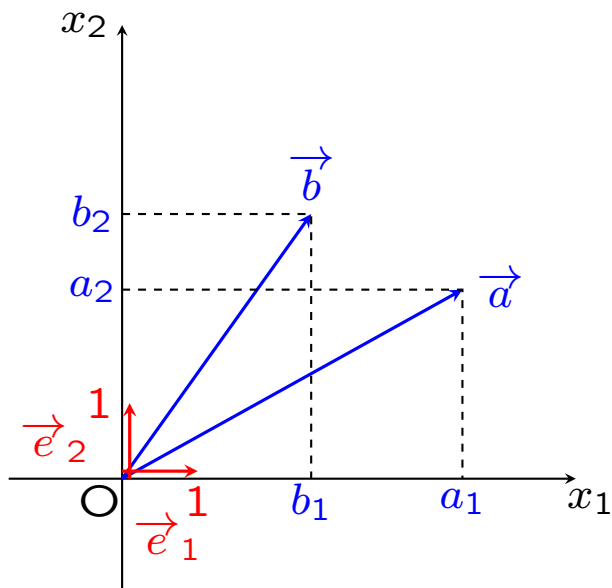
(有向距離)

まとめ



(5) 内積を成分で表す方法

★ 本書 p.241 問3.20



自分自身の内積はノルムの2乗だから

$$\vec{e}_1 \cdot \vec{e}_1 = \|\vec{e}_1\|^2 = 1,$$

$$\vec{e}_2 \cdot \vec{e}_2 = \|\vec{e}_2\|^2 = 1.$$

$$\vec{e}_1 \cdot \vec{e}_2 \stackrel{\text{直交}}{=} 0.$$

ク ロ ネ ッ カ ー
Kroneckerのデルタ

$$\vec{e}_i \cdot \vec{e}_j = \delta_{ij} = \begin{cases} 1 & \text{for } i = j \\ 0 & \text{for } i \neq j \end{cases}$$

問題 8 \vec{a} , \vec{b} を \vec{e}_1 , \vec{e}_2 で表し, 内積の分配法則を使って $\vec{a} \cdot \vec{b}$ を求めてください.

★ 和の記号 \sum で表せ.

解

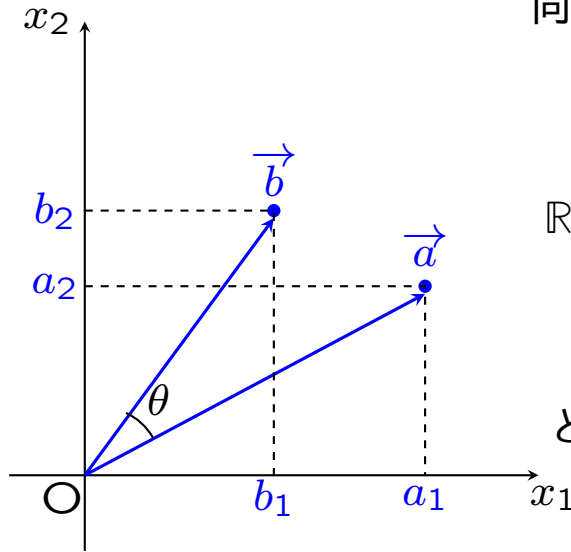
$$\begin{aligned}\vec{a} \cdot \vec{b} &= (\vec{e}_1 a_1 + \vec{e}_2 a_2) \cdot (\vec{e}_1 b_1 + \vec{e}_2 b_2) \\ &\stackrel{\text{分配法則}}{=} \vec{e}_1 \cdot \vec{e}_1 a_1 b_1 + \vec{e}_1 \cdot \vec{e}_2 a_1 b_2 \\ &\quad + \vec{e}_2 \cdot \vec{e}_1 a_2 b_1 + \vec{e}_2 \cdot \vec{e}_2 a_2 b_2 \\ &= a_1 b_1 + a_2 b_2 \\ &= \sum_{k=1}^2 a_k b_k.\end{aligned}$$

	大文字	小文字
デルタ	Δ	δ
シグマ	Σ	σ

内積とスカラー積

★ 本書 p.76, p.234

内積



同じ平面内の二つの幾何ベクトルの間の演算

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = \|\vec{a}\| \|\vec{b}\| \cos \theta.$$

\mathbb{R}^2 は平面のあらゆる点を表す数ベクトルの集合であり、

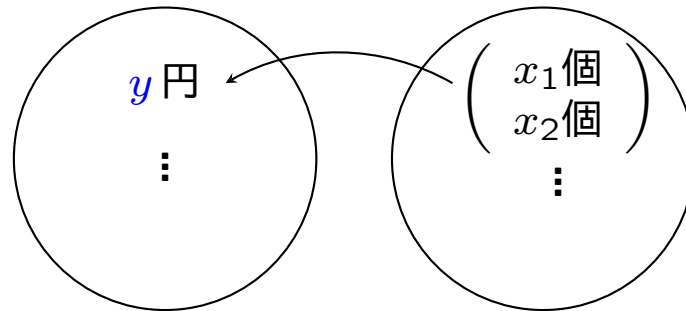
$$\begin{aligned} \mathbf{a} \cdot \mathbf{b} &= \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix} \\ &= a_1 b_1 + a_2 b_2 \end{aligned}$$

と表すこともできます (問題8).

スカラー積

(a_1 円/個 a_2 円/個)

価格空間
「空間」は演算
規則のある集合



個数空間
2種類の商品の
個数の組

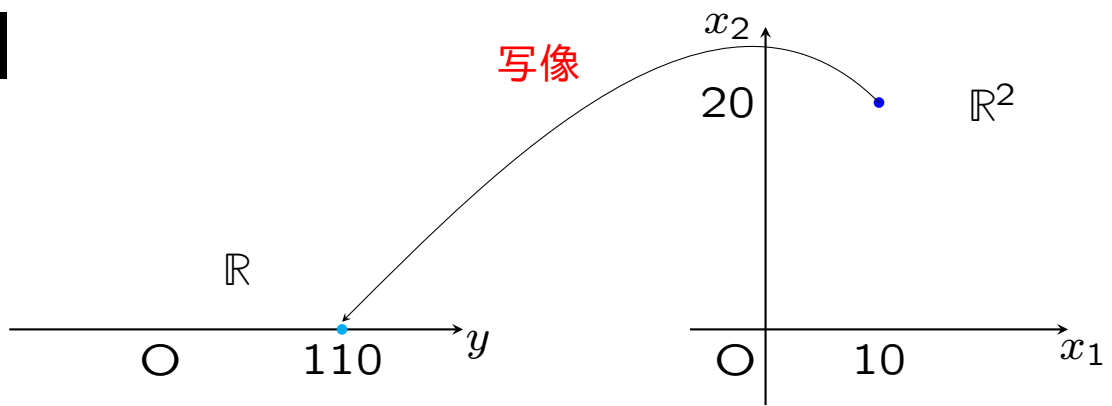
出力

写像

$$\begin{aligned} y \text{円} &= (a_1 \text{円/個 } a_2 \text{円/個}) \begin{pmatrix} x_1 \text{個} \\ x_2 \text{個} \end{pmatrix} \\ &= (a_1 x_1 + a_2 x_2) \text{円}. \end{aligned}$$

積がスカラー量.

例



\mathbb{R} と \mathbb{R}^2 は異なる集合.

x_1, x_2, y は数.

$$110 \text{ 円} = (5 \text{ 円/個} \ 3 \text{ 円/個}) \begin{pmatrix} 10 \text{ 個} \\ 20 \text{ 個} \end{pmatrix}.$$

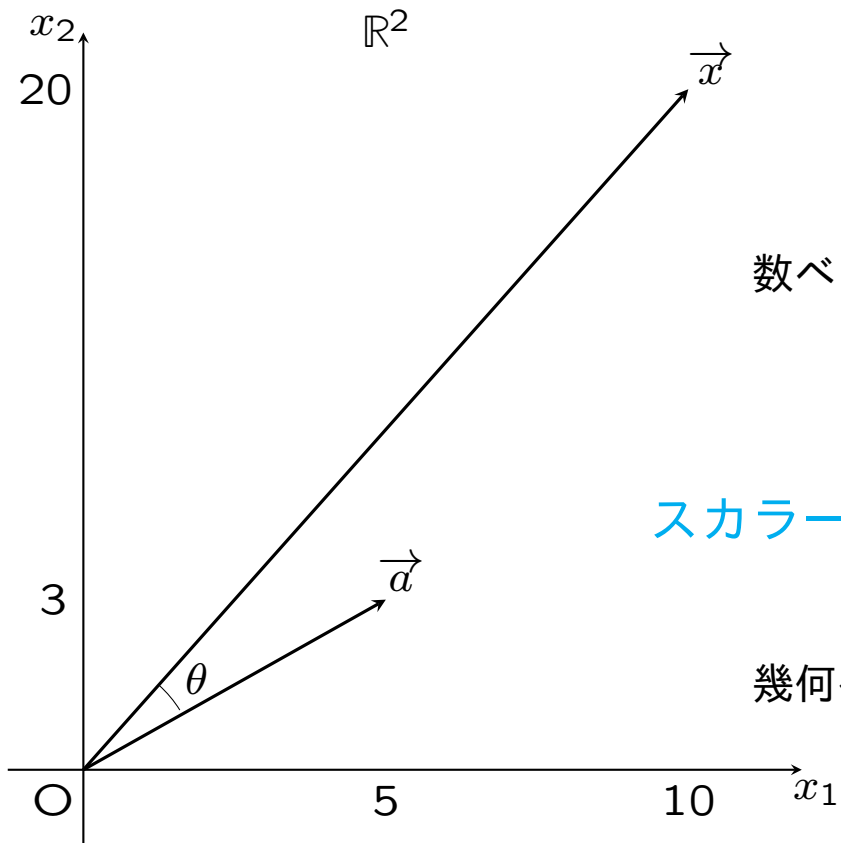
量の関係式 $y \text{ 円} = a' \text{ 円/個} \times \text{個}$ \boldsymbol{v} はヨコベクトル量を表す.

を単位で割ると,

数の関係式 $y = a' \times$ 比例の拡張

になります.

$$\text{スカラー} = \underbrace{\text{ヨコベクトル} \times \text{タテベクトル}}_{\text{スカラー積}}.$$



同じ集合 (平面は点の集合) の
二つのベクトルどうしの積.

数ベクトル $a \cdot x = \begin{pmatrix} 5 \\ 3 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} 10 \\ 20 \end{pmatrix}$. は dot と読む.
 $= 5 \times 10 + 3 \times 20.$

スカラー = タテベクトル × タテベクトル.
内積

幾何ベクトル $\vec{a} \cdot \vec{x} = \|\vec{a}\| \|\vec{x}\| \cos \theta$
 $= \sqrt{5^2 + 3^2} \sqrt{10^2 + 20^2} \cos \theta.$

|| 数の絶対値 **例** $|-3| = 3.$

|| ノルム (ベクトルの大きさ)

問題9 $5 \times 10 + 3 \times 20 = \sqrt{5^2 + 3^2} \sqrt{10^2 + 20^2} \cos \theta$

が成り立つことを確かめてください。

★ 図でイメージを描く。

発展 関数内積

★ 本書 p.245, pp.253 – 256

区間 $[a, b]$ 上で定義した実連続関数 f, g に対して

$$(f, g) = \int_a^b f(x)g(x)dx \quad \leftarrow \text{等号は定義を表す. } \star \text{ 本書 p.3}$$

は内積線型空間の条件をみたすので、関数内積といいます。

★ 量子力学では $\langle f|g \rangle$ という記号で表し、 $\langle f|$ をブラベクトル、 $|g \rangle$ をケットベクトルという。

イメージ $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = \sum_{k=1}^2 a_k b_k$ 番号が離散変数 (トビトビ) の場合

$$(f, g) = \int_a^b f(x)g(x)dx \quad \text{番号が連続変数 (ベター) の場合 (k 番の代わりに x 番)}$$

$$\sum_{k=1}^2 \text{ と } \int_a^b \text{ はどちらも「どこからどこまで足し合わせる」という意味を表します。}$$

自習

本書 p.244 問3.22, p.249 17.1, p.250 17.2, 17.3

次回のための予習

線型変換 本書 4.1 – 4.4節